

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4091100034		
法人名	株式会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム 柳河内		
所在地	福岡市南区柳河内2-6-57 〒815-0063 (電話) 092-562-3007		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価確定日	平成20年7月7日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年7月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人 常勤	16人 非常勤	1人 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての～ 1階部分		
------	---------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有()円	○ 無		
保証金の有無(一時金を含む)	有()円	有の場合償却の有無	有	無
食材料費	朝食	200円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日あたり 1,300円程度			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	0名				
要支援1	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3歳	最低	75歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・かなざわクリニック	・やまの歯科医院
---------	------------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧経営法人は、介護部門を独立させるため、平成19年7月に新たに法人を設立し、1ユニット増設して新規に開設されたグループホームである。ホームの特徴として、食事の提供に特に力を入れている。地域の商店で新鮮で安全な食材を選び、全て事業所内で調理している。利用者の食欲への反映は勿論のこと、共に買出し、調理等を行なうことで、暮らしへの意欲をも高める機会となることを目指している。調査当日、「こんにちは」と大きな声で元気に手を振る子供達の姿が見えた。隣接する保育園児が散歩の途中で声を掛けていくのだそうだ。ホームには、園を良く知る元民生委員の利用者や、卒園生の父母が従事するなど、保育園とゆかりのある人も多いとのことである。このホームからまた、あらたな世代を通しての「ゆかり」が築かれていくように、益々の地域との密な交流を期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回(旧法人時)の評価結果については第1回運営推進会議時に報告を行い、職員へは勉強会時に内容を周知し、改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で地域との交流等の取組みの成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 昨年より、計画的に外部評価の準備が行われてきた。外部評価の意義と目的、項目を周知するために、資料の回覧を行い、後に職員会議を開催し、ホームの現状について再確認する等、職員全員で自己評価にかかわり、サービスの質の向上に役立てる取組みがある。この過程において、開かれたホームを目指すことの重要性や、利用者と家族との関係性を密にする為の支援についての提案等がなされた。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 開設時より、町内会長、前民生委員、公民館長、包括支援センター職員、利用者の家族を招いて2ヶ月毎に開催されている。会議の内容はホーム活動や利用者の状況報告、地域包括支援センター職員より成年後見制度についての説明、地域行事や清掃、公民館活動への参加提案や家族からの質疑応答等が行なわれ、地域交流やサービスの質の向上に生かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時の声かけやその都度の電話連絡の際に、直接申し出ていただけるように配慮している。また運営推進会議時などでは、質疑・応答を利用して家族からの意見や要望等を聞き協議を行い、運営に反映させている。この過程において、日常的に避難訓練を取り入れることや、職員の資格取得状況等で、意見が反映される等、サービスの質の向上に向けての取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時の挨拶や、回覧板回し、草取りや清掃活動への参加、近隣の保育園との交流、地域のボランティアや高校生の吹奏演奏の受入れなど、地域との交流の機会を積極的に捉え、常に地域とのかかわりを意識して運営に取り組んでいる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	理念は、同法人のグループホームが既存の理念に 地域密着型サービスの視点を加え、新しい理念として 作成し、共用している。内容は地域とのかかわりを重 視し、ホームの中で互いに寄り添いながら、家族の様 にケアしていく方針が具体化された内容となっている。	○	理念にむけての取組みを続け、1年が経過されまし た。地域とのかかわりあいや、日々の暮らしを通じ て、ホームの特徴や支援のあり方等、体感された事 が多くあったと思います。法人全体の理念に加えて、 貴事業所らしい独自の理念の再考を期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	事務所や各フロアーのリビングに掲示し、朝礼時の 唱和や、運営推進会議時に説明している。理念の内 容が具体的でわかりやすく、日常のケアを通しての理 念への立ち返りや、管理者から職員への指導を随時 行なうなど、理念の実践に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	散歩時の挨拶や、回覧板回し、草取りや清掃活動 への参加、近隣の保育園との交流(猿回しの見学 等)、高校の吹奏楽演奏や地域のボランティアの受入 れなど、地域との交流の機会を積極的に捉え、常に 地域とのかかわりを意識して運営に取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	現法人となっては初回の外部評価である。昨年よ り、計画的に外部評価の準備が行われてきた。外部 評価の意義と目的、項目を周知するために、資料の 回覧を行い、後に職員会議にてホームの現状につい て再確認する等、職員全員で自己評価にかかわる取 組みがある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意 見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎に開催されている。会議の 内容はホーム活動や利用者の状況報告、地域包括支 援センター職員より成年後見制度についての説明、地 域行事や清掃、公民館活動への参加提案や、家族か らの質疑応答等が行われ、サービスの質の向上に生か されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスに関する相談や生活保護制度の利用についての相談、助言を求める等、日常的に連携を図っている。また、コンサートや忘年会等ホーム行事の案内状を送付するなど、往来の機会の確保にも努めている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に、包括支援センター職員による勉強会や地域の民生委員、公民館長から制度の実態について説明を受ける等、地域、家族、事業所が連携し、制度の理解と活用に向けての支援を行っている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話での報告が行われている。また、利用者の状況や暮らしぶり、ホーム行事等を掲載した便り「ゆかり」を毎月送付している。金銭管理は「お小遣い帳」を提示し、職員の離職等については運営推進会議にて報告を行っている。	○	現在「面会ノート」や、利用者作成の絵手紙などで家族への報告に取り組まれています。加えて、介護記録や運営推進会議録なども、利用者やホーム全体の様子を知っていただく為に、大変効果的であると思われます。積極的な提示等、活用に向けての取組みを期待します。
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時の声かけやその都度の電話連絡の際に直接申し出ただけのように配慮している。また運営推進会議時などでは、質疑・応答を利用して家族からの意見や要望等を聞き、協議を行い、運営に反映させている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は必要最低限にとどめるように配慮している。離職等の際も利用者・家族に説明し、誠意をもって向き合うように努めている。新しい職員が入職した際は、利用者に寄り添いコミュニケーションを密に図れるように、先輩職員がフォローする等、馴染みの関係づくりへの取組みがある。		
5 人材の育成と支援					

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別などによる制限はない。経験の有無についても同様で、本人の意欲に加えて資質と夜勤も含めて時間的・体力的に勤務が可能か否か等を重視している(法人採用)。職員の各々の特技を生かして絵手紙や園芸等、利用者と共に楽しめる支援に取り組んでいる。資格取得を目指す職員に対しては勤務ローテーションの調整を行うなどの支援体制もある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の尊重を念頭において、支援にあたっている。人権教育や啓発活動については今後の課題である。	○	広義において、人権問題は社会的に問われています。高齢者や福祉にまつわる問題に加えて、さまざまな「人権」に対する認識と理解を深めるため、行政や各協議会等の研修への参加や講師の招聘等、啓発活動への取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティング時に、勉強会を開催している。外部研修は情報を掲示し希望を募ったり、職員の経験等に応じて適切に振り分けるなどの方法で、参加の機会の確保し、質の向上に取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で、管理者同士の情報交換や意見交換を頻繁に行なっている。他事業所との職員間の交流の機会の確保は今後の課題である。	○	現在、地域の事業者ネットワークへの参加を計画されています。地域の同業者と交流する機会を通じて、新たな発見や気づきを生む機会を持ち、更なるサービスの質の向上に向けての取り組みを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に必ず面会や見学、体験利用を行うなど、馴染みの関係を構築するための取り組みがある。また、利用前の情報収集で予め対応手順をまとめ、会議や朝礼で利用者の情報を職員全体で共有し、標準化した対応を行うことで、無理なく慣れていただく様に支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や昔の風習、人生観など、利用者から学ぼうとする取り組みがある。また、利用者が自然と職員へねぎらいの言葉かけるなど、互いを尊重し支えあいながら日々を共に過ごしている人間関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に、家族や関係者からの情報収集を行っている。入居後は日々のかかわりを通じて、利用者の思いや希望の把握に努め、記録し、職員全体への周知や、介護計画書に反映される等の取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が、本人の希望や家族の意向等をまとめ、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。介護計画の内容は目標に加えて、具体的な対応や手順書を作成し、詳細な支援の手順について明記され、利用者・家族・職員が情報を共有する取り組みがある。		
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全利用者の状況について、毎月のミーティング時に協議しモニタリングを行っている。評価、見直しをする際には、目標に達していない原因を利用者にかかわる要因と職員による支援の方法等から包括的に協議し、より、現状に即した計画の作成への取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	医療連携加算体制や通院、入 院に関する支援、自宅への外 出・外泊時の送迎等、可能な 限り柔軟に支援している。ま た、ホームを訪れるボランテ ィアの方から、高齢者につい ての相談を受けるなどの取組 みがある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	契約時に利用者及び家族の意 向を確認し、希望に沿って支 援している。かかりつけ医の 受診は家族が対応し、協力医 療機関は2週間に1度の往診 が行なわれ、24時間対応が可 能である。また、定期的に歯 科往診が行われる等、適切に 支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	契約時と医療連携加算体制の 導入時に、重度化や終末期 におけるホームとして、可能 な対応について口頭での説明 を家族に行なっている。利用 者、家族の思いや意向の確 認、関係者による話し合いの 機会の確保等は、今後の課 題である。	○	事業所としての方針の説明・ 同意と並行して本人や家族 の「意向」を早い段階で聞き 取る取り組みを期待します。 また、その都度の状況と照 らし合わせて、意思の確認を 行い、具体的な手順と合意を もって関係者全員での方針 の共有を期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応についての勉強会やその都度の指 導を実施している。また、介護計画書にも個別に声か けの方法等(語尾の上げ下げ等)について細やかに 明記され、統一した支援がなされている。個人情報に 関する記録物等は、事務所やスタッフルームにて適 切に管理されている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者ごとの生活リズムに配慮し、日々の過ごし方、 食事や入浴のタイミング、その日その時の利用者のペ ースと意思を尊重した支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	地元の商店で利用者と一緒に買い物を行い、新鮮 で安全な食材を選び、一緒に調理をし、共に味わいた いという意向のもと、食事を大切な活動の一つとして 意欲的に取り組んでいる。現在は、殆どの利用者が 自分で食事を取れる状況にあり、それぞれ食事を楽 しまれていた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	基本的には隔日の入浴を勧めている。利用者の希 望に沿って、毎日の入浴や午前中、夕食後の入浴に も対応している。あまり入浴を好まれない方には、タイ ミングを見計らっての声掛けや清拭等を行い、定期的 な清潔保持の機会を確保している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	今回の自己評価の過程で、利用者の役割分担につ いて協議を行った。気持ちを表出しにくい場合も、利 用者ごとに可能なことを見つけ、提案しながら、実施 へつなげるなどの取り組みがある。具体的には、食事 の準備等の分担や畑の水やり等、楽しみながら継続 していけるように工夫している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常生活での買い物や散歩、ドライブや野球観戦、 毎月の行事や外食など、積極的に戸外に外出する取 組みがある。また、美容室や喫茶店など、利用者個々 の希望や状況に合わせての外出の支援もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	前回の外部評価を受けて運営推進会議や職員会議 で協議し、施錠の弊害を熟考した上で可能な限りの 開錠に取り組んでいる。現在は、外出傾向が強い利 用者には、職員が付き添って外出する等の取組みが ある。職員の対応が困難な時間帯には施錠を行なっ ている。	○	現在、段階的に開錠に向けての取組みをされてい ます。 「施錠」については、利用者の心身状況や住環境、職 員の状況等の影響が大きい事は理解できます。まず は、利用者の「安全」と「自由」を支援できる体制を作 り、結果として開錠につながるような、継続的な取組 みを期待します。
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、消防署の立会いのもと、避難訓練が行われ ている。訓練については、地域の回覧版にも掲載さ れ、地域住民の参加を募ったり、協力依頼を行うなど の働きかけがある。また、日常的に利用者と一緒に避 難経路の確認や移動訓練を行うなど、災害時の対応 への取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	予め、栄養バランスやカロリー表示がある献立表を 採用し、その中から、利用者の好みや食習慣にも対 応できるように支援している。食事・水分摂取量は毎 回記録し、体重の増減についても定期的に記録して いる。また、必要に応じてカロリーを調整するなどの 支援がある		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は段差もなく、安全に移動できる造りとなっ ている。リビングは程良く採光され、外出した際のス ナップ写真や季節感を取り入れた飾りなどが施してあ る。テーブルには、季節の野の花が飾られるなど、居 心地よい空間づくりへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室はベッド、クローゼットが備え付けられており、 木目調の温もりを感じる造りとなっている。利用者・家 族が相談し、利用者にとって馴染みの寝具や家族の 写真、調度品などが持ち込まれており、居心地良く過 ごすための居室作りへの工夫や配慮が見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号